

平成 30 年度 第 2 回八尾市産業振興会議 議事概要

日 時	平成 30 年 9 月 19 日 (水) 15 時 00 分～17 時 00 分
場 所	八尾商工会議所会館 3 階 中会議室
出席者	<p><委員> 忽那座長、滝本副座長、阿部委員、居相委員、樫本委員、梶本委員、勝浦委員、佐藤委員、田口委員、水野委員、美馬委員、三宅委員、山田委員、山本委員 計 14 名</p> <p><事務局> 植島部長、平尾次長兼室長、西野課長、津田参事、永家課長補佐、後藤課長補佐、倉橋係長、藤原係長、松尾係長、浦崎、吉田 計 11 名</p> <p><オブザーバー>八尾商工会議所 川野氏 総計 26 名</p>

－事務局による司会で次第に沿って進行－

1. 開 会

事務局より、全委員 19 名のうち欠席者は 5 名で 14 名の委員の出席となっており、八尾市産業振興会議規則第 3 条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立していることが報告された。配布資料を事務局より確認。

2. 経済環境部長あいさつ

3. 議 事

－忽那座長による議事進行－

(1) ワークショップ

事務局よりワークショップについての説明。

▼アイスブレイク：「ヒーローインタビュー」

3 分間で「名前・仕事・大事にしていること」を隣同士で自己紹介。

▼ワーク 1：「ロードリーム、ハイドリーム」

事務局：各自で「こんな八尾市だったら〇〇」というように最高の状態（ハイドリーム）、最悪の状態（ロードリーム）を想像し書き出してほしい。

[ロードリーム]

委員：若者が大学を出た後に、八尾に帰りたくない、住み続けたくないと出て行ってしまう街。

事務局：仕事で忙殺されている状態。生活を楽しむ余裕がない。

委員：絶対にどの家庭においても女性が就業しなければならず選択の自由がない環境。無理やりの女性の社会進出が進んだ状態。

[ハイドリーム]

委員：ものづくりの街なので、音・においなど住環境と共存できる社会。また、子どもたちの笑いが絶えない社会。

委員：社会の中でもう一度「互助の関係」が復活している状態。

委員：多世代が共存し、笑い、分かり合える社会。そこは、人が集まり、訪れたい街となる。

事務局：今の八尾市がどちらの状態に近いのかを、用紙の間に各自が立つことによって表現してほしい。

事務局：ネガティブな方に偏ってしまうと目先の課題と問題ばかりに目がいき、10年後を考えることができなくなってしまう。一方で、ポジティブな方に偏ってしまうと課題や問題が回避できなくなってしまう。そのため、どちらがよいということではないが、今回はバランスの良い方が多いことがわかった。

(2) 八尾市の産業を取り巻く状況について

事務局より資料1に沿って、八尾市の産業を取り巻く状況について説明。

▼ワーク2：「10年後を想像する」

事務局：2つのチームに分かれ、10年後の八尾の暮らし、生活、まちづくりを想像し、意見を出してほしい。【グラフィック参照】

(3) シナリオプランニングについて（確実な未来）

事務局より資料に沿って説明。

▼ワーク3：「10年後の可能性」

事務局：以上を踏まえ、私たちとして何ができるのか、何をしていくべきかを2チームに分かれて考え、共有してほしい。

[チームA]

委員：キーワードは多様性。色々な生き方を認めるのが一つの方向性。それぞれが違うことを前提として、まとまりをもたせるためにはどうするのか考えていく必要がある。また、技術が進む一方で、人と人との接点として、人のぬくもりを感じるつながりを意識していく必要性も意見として出た。結論としてでたのは、声を掛け合えるような「人間らしい」関係性を築くためにアナログな場を作る必要性。

[チームB]

委員：こちらのチームでは全員が自分ごととして考えた。10年後残したいものとしては、いい意味でのずうずうしさや思いやり、河内木綿や河内音頭など地域密着の意見が多くでた。また、残したくないものとしては、マナーや言葉の悪さなど。一方で人情と表現の粗さは表裏一体という意見もあり、河内弁を全国に広めたいというような意見もあった。ただし、外部のひとをお客さんと考えると、その方々の要望に応えることも必要だと考える。その他の意見としては、八尾は交通が意外と便利という意見が出てきた。これを活かさないかという観点で、「わたしたちに今何ができるのか」を検討した。前半では高齢者と子どものために何かできないかという論点であったが、生産性という観点から、IRなどを活用できないかなどの意見がでてきた。

クロージング：「次回までに考えておきたいこと（問い）」

事務局：次回に向けて、何を考えておきたいか各自で検討をお願いします。

(4) 検討部会について

忽那座長より、座長を含め14名を部会メンバーとして指名。

次回の検討部会では、今回の議論を踏まえ「10年後の八尾市の産業」について深掘りする。

－事務局による司会で次第に沿って進行－

4. 産業政策課長あいさつ

5. 閉会

以上